

eco × cooking= (e)cooking
フードバンクを活用した料理教室を通して子どもたちに食の大切さを伝える

eco × cooking= (e)cooking

Conveying the importance of food to children through cooking classes using food banks

グループ名：創価大学近貞ゼミ

学生氏名：野々下正伸、岩元良輔¹⁾、入野美咲¹⁾、竹内鈴香¹⁾、平澤優花¹⁾

指導教員 教員氏名¹⁾、研究協力者 協力氏名²⁾：近貞美津子教授

1) 所属先：創価大学経済学部経済学科 近貞ゼミ

キーワード：フードバンク, 食育, 食品ロス, 農業

1. 提案

私たちは、フードバンクに届いた食材を活用してフードロスの削減を目指すと共に「食育」の提供を目指している。

フードバンクの起源について整理すると、まだ食べられる食品の廃棄を阻止する目的から始まり、近年においては生活困窮者の支援としての活動の広がりを見せている。また、上田によると食生活支援の利用実態と今後のニーズについて調査した結果、「今後必要とする食生活支援」の項目においてフードバンクの次に多いのが「家事サービス」であり、その次に多いのが「料理教育・食育」であったという。「食育」とは「様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるもの」と定義付けられている（農林水産省）。これらの現状を踏まえて私たちは環境への配慮と福祉の二つの面を掲げて活動しているフードバンクに着目し、フードバンクと食育を掛け合わせることでフードロスの削減とニーズのあ

る食育に関してアプローチできるのではないかと考えた。そのためにフードバンクにて集まった食材を実際に使用し、料理の過程を通して食育をすることを発案した。

2. 方法

具体的な内容としては、先述したように、フードバンクで集まった食材を使用した食育をメインとした料理教室の開催する。八王子市の小学生向けに開催し、フードバンクで集まった食材を使用することで食品ロスへの関心や食材の大切さを学んでもらう。市内のフードバンク事業者や農家さんに協力して頂き、フードバンクで集まった食材や製造上で発生する規格外の商品、農産物を提供していただく。参加者の募集方法としてはポスターやSNSを活用したり、市内の小学校にチラシを配布したいと考えている。開催場所としては市民センター等の市内の公共施設の調理室などをお貸しいただく。

料理教室自体の流れとしては、①食材および提

供者の紹介を行う。ここでは、フードバンクの仕組みを簡単に説明しながら、今回フードバンクによって集まった食材や提供してくれた農家の皆さんを紹介し、食べ物の大切さを訴えながら食育にもつなげていく。②実際に料理をしながら過剰除去などによる食品ロスについて知ってもらう。③食事。ここでは、食事のマナーなども学んでもらいながら食事の楽しさを感じてもらう。

3. 見込んでいる成果

この取り組みによって得られる成果は多きく2つ存在する。第一に、八王子市の小学生が「学ぶこと」「作ること」「食べること」の3つの観点から、「食育」を受けることができる点である。学ぶことで食の大切さを学び、作ることによって食品ロスを減らし環境に配慮をした調理方法を身につけ、食べることで食への感謝を学ぶ機会になる。

第二に、食品ロスを減らすきっかけとなる点である。料理教室で廃棄になる予定の食材を使うため、直接的な食品ロス削減になることはもちろん、子供の料理教室の開催を通じて、市内の家庭にフードバンクを周知させるきっかけとなるだろう。

4. 課題

先述した提案を行う上で、解決していかなくてはならない問題もいくつか存在する。

第一に、定期的を開催するうえで、食材の安定供給が難しい点である。農産物に関しては、食材ごとに収穫時期が決まっており、また規格外の食材がどの程度集まるかという保証も存在しない。また、フードバンク自体にも食材を安定して回収できないという課題があり、定期的な料理教室を開催するにはこれらの問題は解決する必要がある。八王子市内で無農薬野菜を育てる坂本ファームの坂本様からは、「着眼点は素晴らしい。今後は食品ロスが発生する過程や原因を現場へのヒアリングを通して学び、実現に向けて動くのがいいのではないか」という評価をいただいた。

第二に、資金調達の面においても、企業様をは

じめとした出資をしてくださる方の力添えが必要である。

5. 結論

本研究では、食品ロスの削減と食育をフードバンクに届いた食材、および規格外の農産物を使用した、小学生に対する料理教室の開催を提案した。

八王子で農業を営む坂本ファームからも、提案のアイデアに対する高評価をいただいた。

この提案が実現すれば、児童及び保護者には食育による教育を、フードバンクや市内の農家には地域貢献による認知度の上昇や、社会的イメージの向上など、それぞれにとって有意義な企画ではないだろうか。

ただ、課題も多く存在し、私たち学生だけでは解決できない問題も多々ある中で、八王子市や市内の企業、農家の皆様にもご協力をいただき、実現に向けた行動をおこしていきたい。

<参考文献>

上田遥 (n. d.) 『食生活支援の実態と今後の課題 - 「結果」から「潜在能力」の平等へ-』

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jfsr/29/4/29_4_15/_pdf/-char/ja

農林水産省 (n. d.) 『「食育」とは』 index.html